



「川津をつくるのは自分たち」

川津公民館運営協議会 会長 小塚 昭郎

相田みつをの「日めくり」に「しあわせはいつも自分のこころがきめる」という言葉があります。『川津は良いところだ』と周りの人からいくら言われても、住んでいる自分が納得しなければ住みやすく良いところだとは思えません。

松江市の公民館

さて、松江市の公民館の特徴は大きく二つあります。一つ目は、市が器（＝建物や費用負担など）を作り、住民が運営する「公設民営」方式です。私は、これが当たり前の仕組みだと思っていました。全国的には市や町が職員を置き、直接運営する方式が圧倒的に多いようです。

二つ目は、活動の中身です。公民館を設置する法律には、住民に生涯学習の機会を提供する場としての役割がうたわれています。もちろん松江市の公民館でもそれ



は大きな柱なのですが、その他にも多くの地域団体の事務局などを持ちながら福祉や防災、青少年の育成、住民が集う祭りなど住む人が、これが川津にとって大事だ、と思われたいことは何でもやっています。学習の場を提供するだけでなく、地域が良くなるためなら、何でもできる場所、地域の想いを実現する拠点、地域運営の真骨頂です。

全国も注目する川津公民館の活動

川津公民館が主体となつて取り組む活動は、県内外から注目されており、職員が講師として呼ばれたり、大会などでの発表が続いています。

たとえば、「夏休みこどもの居場所づくり」事業。小学生を対象に今年も四十二プログラムを実施し、延べ八八三人が参加してくれました。協力組織は九年間で延べ五十三団体に及びます。



五年前から続く朝酌川の河川敷を舞台にするフラワープロジェクトには、学園通り商店街や松江東高の皆さん、銀行支店、川津交番、地区外からの有志も作業に参加し、これまで延べ二〇〇〇人が汗を流しました。咲き誇るコスモスは季節の風物詩になっています。三、四千人が来場する、川津ふるさ

と夏まつり、県内の名所となっているクリスマスイルミネーションなど。

また、市内でこれほど子供たちの声があふれる公民館もありません。理由のひとつに幼稚園から大学まである文教地区ならではの取り組みが進んでいることがあげられます。また、館長を先頭に労を惜しまぬ職員奮闘を称えるのはもちろんですが、地域を良くしたいという多くの川津の住民に支えられていることが要因と思われま



我がこのこころ

各種団体の代表などで構成する公民館運営協議会の三十名のメンバーをエンジンに、地域内の多くの方々の参画を得て活動がすすんでいます。

地区内の方が持ち寄るペットボトルのキャップは、松江養護学校の取り組みで途上国支援活動になり、Sさんが提供する西条柿の収益は、みんなの食堂に活かされ、Nさんをはじめとした方々による公民館の花の手入れや環境整備。皆さん、我がことのように川津を良くしようとして汗を流してください。

防災や危急時の心得に、自分の命は自分で守る、という鉄則があります。これは平時では、自分が住む地域は自分がつくる。に通じる姿勢ではないでしょうか。そうすれば相田みつをが云う自分が幸せだと思える川津をつくることになるのでしよう。本年もよろしくお願ひします。



学校では経験できないことに挑戦しました。



「新聞で楽しもう」
文章だけでなく写真や構成など様々な角度から読む方法を教わりました



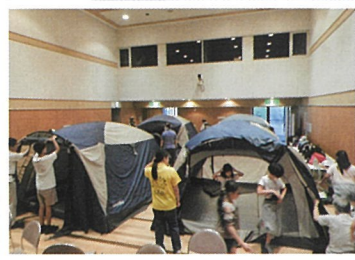
「プール開放」
暑かったけどルールを守って安全に楽しめました



「環境学習」
県内産の木材チップで発電しているバイオマス発電所を見学しました



「うちわ作り」
白いうちわにシールを貼ったり絵を描いてオリジナルのうちわを作りました



「防災キャンプ」
実際にテントを組み立てました



「高校生と楽しむ理科実験」
しゃべるカップを作って口の形で異なる音が出る実験をしました



「発電所見学に行こう！」
水力発電所では回るタービンを間近で見学しました



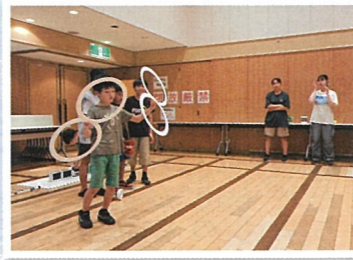
「レクリエーション活動」
カーレットに挑戦しました(嵐山登山は猛暑で中止)



「和菓子づくり体験」
そばろ状にした餡を付けて「きんとん」を作りました



「みんなの食堂」
カードゲームやモルックなどでお腹がすいたのでみんながおかわり



「ジャグリング体験」
2時間の練習の成果をみんなの前で発表



「新聞紙ドームをつくって遊ぼう!!」
新聞紙を貼り合わせて大きなドームをつくりました



「島大寺子屋」
行政学ゼミさんの協力で模擬投票も体験しました



「『ばけばけ』って知ってる?」
小泉八雲とセツのお話を聞いた後、しおりや缶バッジを作りました



「ゴムで動く車を作ろう」
オリジナルキットの製作を通じてまさつや動力の伝達を勉強しました



「出雲駐屯地&歴博で勾玉づくり」
石を勾玉の形になるように紙やすりで削ります



「フラワーアレンジメント」
いろんな方向から見方を確認します



「陶芸教室」
どう挿せば綺麗に見えるかを教わりながら自由に生けます



「陶芸教室」
球体の粘土を皿の形になるようにたたいてのばしていきます



「陶芸教室」
皿の形ができたら絵や模様を描いていきます

9年目となった夏休みの子どもの居場所づくりプログラム「夏休み、なにをする?」。毎年恒例のプログラムはもちろん、高校生が企画したプログラムなど、31日で42プログラムを実施しました。川津小学校を中心に延べ883名の児童のみなさんに夏休みにしかできない体験の場を提供しました。



「写真を撮ってみよう」
カラコロ工房の風景を切り取りました



「水辺の教室 ~穴道湖・しじみについて学ぼう~」
穴道湖に入ってしじみ取りをしました



「みんなの勉強お助け隊」
東高校と島大のお兄さん・お姉さんに勉強を教わりました



「カードゲームで遊ぼう」
それぞれが違うルールで並べ替えゲームをしたらどうなるかな



「ストリートけん玉にチャレンジ!!」
「どめけん」「飛行機」などいろいろな技に挑戦



「かわつ故郷かるた」
川津が題材になったかるたで川津のことに詳しくなりました



「公共施設探検」
市役所と北消防署に見学に行きました



「eスポーツにチャレンジ!!」
「ぶよぶよeスポーツ」でトーナメントを開催しました



「ハーバリウムづくり」
飾りをそれぞれのやり方でびんの中へ配置します



「米子駐屯地&トム・ソーヤ牧場に行こう!!」
米子駐屯地では戦車やヘリコプターの装備品を見学しました



「ミニ四駆作成教室」
できあがったミニ四駆でトーナメント形式のレースを開催



「三瓶自然館と小豆原埋没林公園」
ガイドさんの解説で埋没林について学びました



「スノードームづくり」
短大の学生さんのサポートでキラキラのスノードームができました



「メロディーの流れるフォトフレームを作ろう!!」
部品を一つ一つはんだ付けして音の流れる回路を作っています



「ふるさと森林公園で木工&自然遊び」
木のパーツを貼り付けてフクロウのマグネットを作りました



「手作りの釣り竿でゴズを釣って食べよう」
大橋川で釣ったゴズをから揚げにして食べました



「国際交流員さんと交流しよう」
フランスの交流員ジュールさんとボール遊び「トマト」



「国際交流員さんと交流しよう」
中国の交流員テイロさんと切り絵(ジャンクション)に挑戦



雑賀公民館を視察して

総務部 長谷川美利

九月七日、雑賀公民館を訪問しました。私は十年ほど前、雑賀小学校に勤務していました。その時、公民館の方や地域の方にお世話になったことを懐かしく思い出しました。

雑賀公民館はそれぞれの部屋に、雑賀出身の偉人の名前がついています。

我々は「若槻ホール」一、二で、赤木直行館長、恩田元穂運営協議会会長のお話を聞きまし



した。地域行事活動、福祉活動、人権教育や文化活動について、具体的な事例を通して説明していただきました。特に「さいかまつり」「体育会」「文化祭」の活性化や継続性を目指しているとのことでした。そのために場所や時間を工夫しながら実施したことで、若い人からお年寄りまで、多くの人が参加されたそうです。

高山の標高三三三三にちなみ、三月二十二日を「高山の日」に!

まちづくり部 佐藤 勇人

川津のシンボルの一つである「高山」。寝仏山として慕われ、特徴的な姿と風土記の時代から信仰の山として地域の皆様に愛されています。

また、川津地域の幼稚園から高校・養護学校の園歌・校歌にも「高山」が詠まれています。令和七年四月の川津公民館運営協議会の席で三月三十一日を「高山の日」にしようということになり、毎年三月三十一日に「高山登り」を計画しています。



▲布伎美神社へ



後半は、場所を雑賀小学校の一角にある「松江先人記念館・雑賀教育資料館」に移動して、資料を見学しながら説明を聞きました。資料館には、多くの偉人の資料が数多く保管されていますので、興味のある人は見学に行かれたらいいと思います。



▲松江先人記念館

天気にも恵まれ、有意義な研修を行う事ができました。研修したことが、今後の川津の活動に活かすことができると思います。



高山に限らず、この地域の歴史・文化を繋いでこられた先人の暮らしに思いを巡らせ、ここに住んでいる人々がここにずっと住みたい、また進学や就職でここを離れる方も、ふるさと川津のことを気に掛けていただける「まちづくり」を皆さんと共に実施していきたいと考えます。



▲山頂にて

餅つき大会開催!!

青少年部 小村 宗裕

青少年部では、川津青少年育成協議会との共催で餅つき体験会を十二月十四日(日)に行いました。川津地区の小学生約四十名と保護者約二十名が参加しました。四つの班に分けてその中から班長さんを指名して餅つきをしました。

子供たちの中には、初めて餅つきを体験する子供もいて、杵や臼を興味津々でみていました。蒸しあがったもち米を、餅つき機にかけて、ある程度餅をついてから臼に移して、餅をつきました。最初はおっかなびっくりの感じでもちをついていた子供たちも回数を重ねるごとに少しずつ上手くなっていきまし



▲力いっぱい餅つき



▲おいしく、しっかりこねます

みんなでたのしくあそんだね

幼児部 庄司 道子

令和七年度の「かわつっ子」は五月二十一日「はじめましての会」から始まりました。今年度も母子保健推進員(まあまの会)、保健師の協力により、お母さんたちの検診や絵本の読み聞かせなどを行いました。

六月初めの試みで、「ぼてぼて茶体験」をしました。転勤族のお母さんが多いので、出席者全員初体験で好評でした。七月は七夕なので紙の皿に彦星



6月 ぼてぼて茶体験



7月 七夕飾り作り

10月 フォーゲルパーク遠足



▲12月 クリスマス会

と、大人の力強さを子供たちにみせつけ、笑いの絶えない一時となりました。つきあがった餅は、すぐにこねて食べました。つきたてなので、とても美味しく、たくさん食べていました。

また、ボランティアの皆さんに作ってもらった野菜たっぷりスープがとてもおいしく、子供たちの食がすすみました。今回餅つき大会に参加していただいた東高一年生の生徒さんからは、食品ロスの問題をわかりやすく説明してもらいました。スープに入っている野菜も規格外で捨てられる予定の野菜で作っていることも説明され、クイズに回答しながら楽しく学びました。



▲東高生さんのプレゼン

当日は、風が強く寒い日でしたが、公民館は本当に温かなひと時となりました。これからも、子供たちと温かなひと時をつくりたいために、地域の皆さまのご協力をいただきながら活動していきたいと思えます。

と織姫の飾りを作りました。

九月は「リトミック」で親子で身体を動かしました。

十月は「バスに乗って遠足」でフォーゲルパークに行きました。ペンギンが大人気でした。

十一月は「ミニ遊園地で遊ぶ」でトンネルくぐりや魚釣りをしながら楽しい時間を持ちました。

十二月は「クリスマス会」でハンドベルの演奏を聞いたり、家に飾るミニツリーを作ったりしました。最後にサンタクロースの登場で子供たちは大喜びでした。

今年も御協力頂いた皆様お世話になり、ありがとうございました。

成人部

この一年の活動

成人部 大矢 敬子

成人部では、二回のバス視察研修を実施しました。今後は、朝ドラで人気の小泉八雲とセツに関する講座と、吹矢の体験教室を予定しています。視察は、広く見聞し学ぶと共に、日頃疎遠な一人暮らしの皆さんとも時間を過ごし繋がりを深めることが期待できます。

最初の視察は、七月二日に開館間もない「鳥取県立美術館と倉吉白壁土蔵群まちあるき」に四十三名が参加しました。暑い日でしたが散策はきつかったという感想がありました。近年の酷暑の中で野外の視察には十分な配慮が必要です。



▲鳥取県立美術館



◀もみじ饅頭手焼き体験



▲倉吉白壁土蔵群

後八十年という節目を考慮した視察先でした。ここ数年でリニューアルされハイテク展示は見応えがありますが、外国人や子供たちなど大賑わいでじっくり見学できなかったのは少々残念でした。

二回目は、十一月二十七日に「広島平和記念資料館ともみじ饅頭手焼き体験」に三十名が参加しました。戦



▶広島平和記念資料館

文化部今年も

たくさん笑顔が

文化部 足立 克己

とある朝、コンビニの前でオツサンたちがコーヒをすすりながら「そろそろ芋畑起こさな、いけんだねかや？」四月の半ば頃でした。今年も幼稚園・児童クラブ・未来学園・やわらぎ・国際交流員・地域の方々和気藹々笑顔での芋づくりです。十月の収穫では暑さや雨不足に負けず例年より大きな芋がゴロゴロと、これには皆の大きな笑顔もゴロゴロと。

十月の文化祭では初の試みで、島大ジャグリングサークルにパフォーマンスと、子供たちとの体験タイムをお願いしました。沢山の子供



▲国際交流員さんと芋ほり



▲ジャグリング体験中

たちが色んな技を教えてもらい、成功した時には笑顔が爆発していました。

十一月末からはイルミネーションの取付です。今年のメインはピンの取付です。今年にドンと鎮座させました。点灯開始すると親子やカップル・中高生がハートの中に収まって、笑顔で写真を撮っているではないですか!!これは思惑どおりと思っていたら、なんと『しまねっこ』までやって来たではありませんか!!



でも、本当に嬉しかったのは、白髪のご夫婦が仲良くピンクのハートの中で、笑みを浮かべながら写真を撮っておられた姿です。これからも文化部では、老若男女みんなが笑顔になれるイベントを企画したいと思います。